

寄贈圖書

植田清次著 經驗論の哲學 (平凡社全書) 東京 平凡社 定價 百圓

寄贈・交換雜誌

山口商學雜誌 (十八ノ一) 國語・國文 (十七ノ一、二、三)
立命館文學 (六十二、六十三) 經濟論叢 (六十一ノ一)
經濟學雜誌 (十七ノ三・四、五・六、十八ノ一、二、三)
哲學季刊 (七) 一橋論叢 (十九ノ一・二、三・四)

前	號	目	次
文學士 森 昭	大學の原型……………	「大學の理念」の史的展開	
文學士 張 源 祥	音樂に於ける意匠と表現(兼前)		
文學士 山 田 品	聖アウグスチヌスに於ける同心の問題(兼前)		

倫理學研究會

五月八日午後一時より第二演習室に於て開く。文學部講師田中熙氏が「カール・ハイムの神學的倫理思想について」と題し、ハイムの *Der evangelische Glaube und das Denken der Gegenwart* 中 *G. I. Glaube und Denken* を中心として、ハイムの思想について研究發表をされ、その要旨は次のやうなものであつた。

ハイムによると一九三〇年代のヨーロッパの精神的狀況は非常に激しい規模の大なる *Glaubenskrise* の行はれた時代即ち宗教否定と信仰擁護の對立、一元論と二元論の世界觀的對立が根本的ならはれた時代である。一元論の立場は世界はそれ自身で因果關係により存在し神と人間は直接に連続すると考へ人間をも内在的にみる。かゝる立場は汎神論的、神祕主義的立場といふことが出来る。それに反して二元論の立場は世界については創造者と被造物とを分ち神と人間とは絶對的に斷絶したものとみる。ハイムはかゝる二元論の立場から信仰を擁護してその確實性を基礎づけようとする。彼は辯證神學者の影響を受けそれと同様の立場から二元論をとるものではあるが、しかしハイムの神の超越性の基礎づけは特色のあるものであつて單なる辯證神學者の立場の採用とみることは出来ない。

しからば彼は如何にして神の超越を基礎づけるかといへば、

神を單に絶對他者とみるだけでは不十分であると考へて一層立入つて説いてゐるが、*innerweltlich* にもいくらかの超越を彼は認めてゐる。第一に私の對象界と汝の對象界、第二に私と對象界及び汝と對象界即ち主體と客體、第三に私と汝即ち主體と主體の三つの關係が存する。換言すればこれらの前者と後者ととは絶對他者として對立の關係にあり、しかもそれらは *dimensional* に對立してゐる。即ち私の對象界と汝の對象界、主體と客體、主體と主體はそれぞれ *dimensional* に *durchdringen* し、*begrenzen* する、*inhaltlich* に區別されるのではなく、何らかの點に於て出逢ふのである。こゝにハイムの思想の一つの特色がみられる。

これら三つの内世界的超越に對して神の超越は如何といふに、その超越の仕方は單に *Ich-es-du* が互に超越の關係に立つ世界の「上」に *Über, Ober, Jenseits* ではなく、又かゝる世界と次元的に切れ合つてゐるでもない。このやうなハイムの思想が辯證神學者の影響の下にありながらしかも彼等と相違する點である。神は主體としてのみあり、決して客體として在るものではない。永遠の今としてあり、必ず如何なる人々によつても汝として呼びかけられしかも誰にでも *Ich* として呼びかける主體である。結局神はすべての人にとつて永遠に現在してゐる汝である。單に世界の外であるとか、世界に次元的に對立してゐるものではない。神に對するには *Einscheidung*、生命を賭しての究極的 *Entweder-Oder* が必要である。絶望を通じて神への道は開けるのである。

要するにハイムの思想は *Ontologic* と *Theologic* とを結びつけるところにその根本がある。オントロギイッシュな確實性を以て神は認識されるとハイムは説く。かゝる立場からは倫理も神學的倫理となり、例へば責任といふことも單に他人に對してではなく神に對して責を負ふのである。義務も神の命令としてはじめて確立される。このやうな内世界的超越の關係や神の超越の研究に目を向けるところにも倫理學研究者にとつて注目すべき問題を包含してゐると思はれる。

(肥後政平)

教育研究會例會

五月二十一日 午後三時 於第八教室

アメリカの初等算數教科書について

教育學教室 A・E・L 研究會數學班

六月十六日 午後三時 於第三演習室

アメリカの初等國語教科書について

教育學教室 A・E・L 研究會語學班

講義題目

京都大學文學部哲學科昭和二十三年度

哲學

講義 山内教授 哲學概論

研究 山内教授 Aristotle の論理と因明

大島講師 理念の自由と存在の自由

下村講師 數理哲學(第二學期)

演習 山内教授 哲學の諸問題

山内教授 Thomas : Summa theologica

大島講師 Hegel : Phänomenologie des Geistes — Bewusstsein から

田中助教授 Kiriみや語 (F. A. Trendelenburg : Elementa Logics Aristotelicae)

高田助教授 ラテン語(田中秀央著ラテン文法)

西洋哲學史

田中助教授 古代哲學史概説

高田助教授 中世哲學史(トーマスの體系)

野田助教授 西洋近世哲學史

田中助教授 プラトン著作研究

高田助教授 De ente et essentia 講讀

野田助教授 ライブニッツ哲學研究

エグリ講師 聖トーマスの倫理學、特に幸福の問題

田中助教授 Platon : Politia 講讀

高田助教授 スコロに於けるプリストテネス解釋

野田助教授 Kant : Kritik der praktischen Vernunft

田中助教授 Kiriみや語 (F. A. Trendelenburg : Elementa Logics Aristotelicae)

高田助教授 ラテン語(田中秀央著ラテン文法)

印度哲學史

本田教授 印度學

佐保田講師 印度古代哲學史

本田教授 婆伽梵歌第二章

松尾助教授 學派時代の哲學思想

本田教授 Saddharma-piṇḍarika

松尾助教授 Sāṅkhya-Kārika

支那哲學史

重澤助教授 支那思想史

重澤助教授 清末啓蒙思想

重澤助教授 抱朴子研究(九月以降の見込)

演習

重澤 助教授 東塾講書記
平岡 講師 毛詩注疏
重澤 助教授 翁注困學紀聞

心理學

講義

矢田部 教授 心理學概論
岡原 助教授 兒童心理學
矢田部 教授 思考の心理
和田 講師 知覺の心理
八木 講師 學習の心理

演習

岡原 助教授 實驗演習初歩
八木 講師 實驗演習上級
矢田部 助教授 實驗演習上級
岡原 助教授 心理學書講讀
八木 講師 心理學書講讀

倫理學

講義

島 教授 倫理學概論
島 教授 古代道德史
田中 講師 質存的倫理の諸問題
島 教授 Kant : Kritik der reinen Vernunft (前學期の續き)

教育學教授法

講義

下程 助教授 教育學概論
下程 助教授 教育の人間學的基礎

演習

高橋 講師 新人文主義的教育
大西 教官 教育に於ける心理學的方法
下程 助教授 教育學の諸問題

美學美術史

講義

井鳥 教授 美學序論
井鳥 教授 美の類型
上野 講師 印度美術史概論
土居 講師 日本近世初期の繪畫
井鳥 教授 美學の諸問題

演習

井鳥 教授 Krum : Kritik der Urteilskraft 讀

宗教學

講義

久松 教授 佛敎的宗教哲學
武内 講師 宗教的質存に於ける超越と内在
有賀 講師 第二世紀に於ける基督教思想
古野 講師 宗教社會學

演習

武内 講師 Hegel : Vorlesungen über die Philosophie der Religion

社會學

講義

白井 教授 社會學概論
白井 教授 祖國と民族
姬岡 講師 家族の理論

演習 白井教授 社會學の諸問題

佛敎學

講義 久松教授 佛敎的宗教哲學

研究 久松教授 還相の論理

長尼講師 教例論

演習 久松教授 親覺撰 教行信證